

出演者プロフィール



〈ヴァイオリン〉

アナスタシア・チェボタリョワ

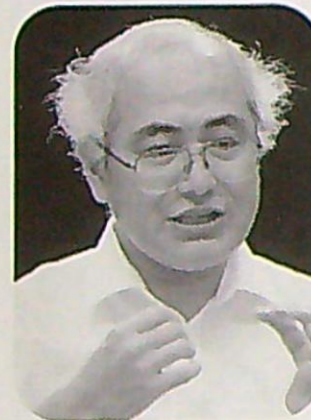
オデッサ生まれ、4才から家族でモスクワへ移り、6才でヴァイオリンを始める。8才の時に高名なヴァイオリン教授イリーナ・ポチコワに才能を見出され、その後モスクワ中央音楽学校を経て1996年モスクワ音楽院卒業、1998年同音楽院大学院修了まで、同女史

のもと一貫したロシアン・メソッドに学ぶ。在学中には1989年パガニーニ国際ヴァイオリン・コンクール入賞、1991年ユベントス国際音楽祭入賞、1992年ルドルフォ・リピツァー国際コンクール優勝に輝く。

1994年チャイコフスキー国際コンクール・ヴァイオリン部門で最高位を獲得、以来活発な演奏活動を開始し、ロシア国内はもとより、ヨーロッパやアメリカなど世界各地に招かれる。

1999年よりモスクワ音楽院のアシスタント・プロフェッサー、また2000年くらしき作陽大学音楽学部にて新設のモスクワ音楽院特別演奏コースに特任教授として招かれる。現在は、日本とロシアを活動の拠点とするユニークなスタイルで世界中で演奏を行っている。

ロシア国家コレクションから特別に貸与されたストラディヴァリ“Zubowsky”(1729)を愛用しており、自身「陽の光が差し込むような音色で、理想的な楽器」と語っている。



〈指揮〉

菊池 東

昭和23年倉敷市玉島生まれ。5歳の時よりヴァイオリンを始める。広島大学工学部卒業後上京し、東京都民交響楽団のサブコンサートマスター、モーツァルト室内管弦楽団のコンサートマスターetc.を経験し、昭和48年帰岡。昭和49年仲間と共に倉敷室内管弦楽団(現、

倉敷管弦楽団)を創立。以来現在まで29年にわたり同楽団の常任指揮者として、交響楽・管弦楽曲を中心に、バロック音楽から映画音楽・ミュージカル・オペラと幅広いレパートリーで各地で演奏会を開催する。

共演したソリストたちも多くヴァイオリンの久保陽子氏・漆原啓子氏、チェロの安田謙一郎氏、ピアノの深沢亮子氏・蔡佩貞氏、ソプラノの横山恵子、テノールのリチャルト・ブルンナーや岡山県内で活躍する音楽家は多数にのぼる。

又、ヴァイオリン・ヴィオラ奏者としてソロ・室内楽の演奏活動も続けている。今年3月には蔵の中コンサートを行い、うまい酒と料理と音楽を楽しむ会も好評であった。

現在倉敷音楽協会会長・倉敷市文化振興財団評議員・玉島ライオンズクラブ会員。



〈倉敷管弦楽団〉

「美しい音色とよいアンサンブルで質の高い演奏を」を合言葉に昭和49年設立の、文化都市倉敷にふさわしい若さと熱気に満ちた楽団です。昭和57年には岡山県文化功労賞、昭和60年には倉敷市文化連盟賞を受賞しました。

演奏曲はバロックから現代曲まで幅広く、團伊玖磨氏作曲「管弦楽のための高梁川」小六禮次郎氏作曲「瀬戸内讃歌」を初演。オペラではモーツァルト「魔笛」、「フィガロの結婚」、「コシ・ファン・トゥッテ」、ビガネ「カルメン」、J.シュトラウス「こうもり」、フンパーディング「ヘンゼルとグレーテル」、プッチーニ「蝶々夫人」等を演奏。

創立10周年記念演奏会では400名から成る第九演奏会、15周年では「三枝成彰with倉敷管弦楽団スーパードリーム・ジョイントコンサート」、20周年ではイヴリー・ギトリス氏、岩崎洸氏との「コンチェルトの夕べ」を開催しました。倉敷音楽祭へも毎月のように出演し、ミュージカル「11匹のネコ」、ヘンデル「メサイア」、プッチーニ「ラ・ボエーム」、團伊玖磨作曲の「夕鶴」その他を演奏し、今年にはビゼーの「カメルン」を演奏しました。

〈倉敷シティバレエ〉

1978年8月、後藤田恵子(日本バレエ協会会員名、仁科恵子)が、郷里玉島にクラシックバレエスタジオを開設。

幼少より、クラシックバレエ、ピアノ、ヴァイオリン、洋画、日本画等の修練を積んだ後、総合芸術であるクラシックバレエを志す。日本バレエ界の先駆者、貝谷バレエ団に所属し、数多くの舞台経験を積む。1970年、モスクワ、レニングラード、キエフ等を廻り学ぶ。本年夏、倉敷シティバレエ25周年(又、1992年6月、日本を代表する世界的スペイン舞踏家小島章司先生を招き、フラメンコスタジオ並設)。岡山バレエ協会創設。岡山バレエカンパニー創立メンバー。(社)日本バレエ協会永久会員。日本フラメンコ協会正会員。

自主公演の他、毎年春、倉敷ハートランド祭、秋、岡山ヤングバレエフェスティバル、冬、Xmasコンサート。岡山を代表し、日本国民文化祭6回。倉敷音楽祭にて、菊池東指揮倉敷管弦楽団と共にミュージカル「温羅と桃太郎」、オペラ「夕鶴」振付。(※2002年クラシック市民コンサートオペラ「ファウスト」振付)

〈今日の出演者〉

垣野 展子	源内 優	大杉 愛	原田 実穂	畠岡 茜
佐藤 恵子	小野真由美	井上 祐里	武田 幸子	滝澤 美鈴
山本真理子	網本 華奈	斉藤 紗希	大杉 優	小幡真季世
大熊 里音	元林 真紋	篠原ゆりあ	川光 綾香	滝澤 芽依



第5回若い音楽家のための
チャイコフスキー国際コンクール



クラシック市民コンサート



2003.7.27.sun

玉島文化センター

午後2:00開演(午後1:30開場)

主催 玉島ライオンズクラブ
第5回若い音楽家のためのチャコフスキー国際コンクール組織委員会
倉敷市
後援 音楽溢れる街たましま実行委員会・玉島テレビ放送(株)

ごあいさつ



倉敷市長 中田 武志

本日、第5回若い音楽家のためのチャイコフスキー国際コンクールのプレ・コンサートとしてクラシック市民コンサートが開催されるにあたり、一言ご挨拶を申し上げます。

倉敷市におきましては、豊かな市民文化の振興を目指して、多彩な文化事業を実施し、一人でも多くの市民の皆様が、国内外の優れた芸術・文化

に身近に接することができるよう、機会の充実に努めています。

「第5回若い音楽家のためのチャイコフスキー国際コンクール」も、こうした趣旨で実施するものであり、新型肺炎SARSの影響により今夏の開催を見合わせましたが、現在、今年度内の開催に向けた最終調整を行っているところです。

こうした中、世界的なヴァイオリニストである、くらしき作陽大学特任教授のアナスタシア・チェボタリョーフさんをソリストとしてお招きし、倉敷管弦楽団並びに倉敷シティバレエのご協力のもと、プログラム全てにチャイコフスキーの作品をとりあげて開催されますことは誠に喜ばしい限りです。

本日は、国際コンクールの運営をサポートしてくださるボランティアの方々もお迎えしておりますが、市民の皆様の温かいご支援のもと、本コンクールが盛大に開催されることを心より祈念いたしますとともに、この度のコンサート開催にご尽力賜りました玉島ライオンズクラブの皆様へ深く感謝を申し上げまして、ご挨拶をさせていただきます。



玉島ライオンズクラブ 会長 器楽堂 晃

玉島ライオンズクラブは昭和31年に文化クラブを基盤として発足いたしました。そのためでしょうか、文化に関心の深いクラブでございます。

当48期におきまして文化を通じ市民の皆様への癒しを奉仕させていただきたいと思っております。

アナスタシア・チェボタリョーフさんはチャイコフスキー国際コンクール・バイオリン部門で最高位に輝き、その他多数のコンクールに入賞されました。最近では、『題名の無い音楽会』や、NHK等々のテレビ番組に出演され活躍されています。今回アナスタシアさんをお迎えし、世界的レベルの音楽を聞かせて頂き、又重厚な倉敷管弦楽団、はなやかな倉敷シティバレエも併せて御鑑賞ください。

玉島ライオンズクラブとしてチャイコフスキー国際コンクールを盛り上げ、合わせて文化を通じ青少年の情操教育・健全育成の一助とし、明るく楽しい住み良い社会環境を作りたいと思っております。

プログラム

チャイコフスキー 幻想序曲
「ロメオとジュリエット」

チャイコフスキー ヴァイオリン協奏曲 二長調
第1楽章 アレグロ・モデラート
第2楽章 カンツォネッタ
第3楽章 アレグロ・ヴィヴァーチッシモ

ヴァイオリン独奏
アナスタシア・チェボタリョーフ

— 休 憩 —

チャイコフスキー バレエ組曲「くるみ割り人形」

- I 小さな序曲
- II 性格的な舞曲
 - a 行進曲
 - b こんぺい糖の精の踊り
 - c ロシアの踊り (トレパーク)
 - d アラビアの踊り
 - e 中国の踊り
 - f あし笛の踊り
- III 花のワルツ

お 話 原田 チエ子
バレエ 倉敷シティバレエ

指揮 菊池 東
管弦楽 倉敷管弦楽団

曲目紹介

幻想序曲「ロメオとジュリエット」

チャイコフスキーはシェイクスピアの作品をもととした音楽を全部で7曲も作曲している。その中で最も内容的にすぐれ、広く親しまれている曲がこの幻想序曲「ロメオとジュリエット」である。

代々反目と抗争を繰り返してきたモンターギュー家とキャブレット家のそれぞれ一粒種として生まれ育ったロメオとジュリエットの悲恋を扱ったこの曲は愛し合う二人の相談相手となるローレンス僧正の慈悲深い心を表わして主旋律から始まり、両家の血なまぐさい争いのテーマに続いて、ロメオとジュリエットの愛の主題と続き、最後はロメオとジュリエットの愛の死を悼むかのような悲しみで終わる。

ヴァイオリン協奏曲

ヴァイオリン協奏曲といえば誰でもベートーヴェン、メンデルスゾーン、ブラームス、チャイコフスキーの4つのVn協奏曲を思い浮かべます。

チャイコフスキーの音楽の魅力はなによりもまず、哀愁をおびた甘美なメロディーですが、そうしたメランコリックな抒情性をあますことなく表現し、さらにスラブ風の情緒とめざましいヴァイオリンのテクニクとを存分に盛り込んで、〈歌う楽器〉ヴァイオリンの特徴を充分に発揮させた名曲です。

アナスタシア・チェボタリョーフさんの見事なテクニクを存分にお楽しみ下さい。

バレエ組曲「くるみ割り人形」

チャイコフスキーの“三大バレエ音楽”の最後を飾るのがこの“くるみ割り人形”です。

〈小さな序曲〉で幕が開くと、そこはクリスマスの夜。クリスマスパーティの客がぞろぞろと入ってくるころから始まりますが、今日はチャイコフスキー自身が演奏会用に編んだ8曲の組曲として原田チエ子さんのお話で演奏を進めていきます。お菓子の国の物語を作曲した夢の世界の音楽を倉敷シティバレエの可愛い子供達のバレエと共に楽しみ下さい。